**資料３－２**

# 明石市第５次長期総合計画の骨子（案）

**この資料は平成22年９月20日に開催された**
**第７回明石市第５次長期総合計画策定審議会の資料**
**より抜粋したものです。**

# 目　次

Ⅰ　序論

**第１章　計画策定の趣旨と基本姿勢**

**第２章　計画の構成と期間**

**第３章　計画策定の背景**

第１節　社会経済情勢の変化

第２節　明石市を取り巻く状況

第３節　明石の地域特性

Ⅱ　基本構想

**第１章　まちづくりの基本方向**

**第２章　10年間のまちづくりの目標**

第１節　まちづくりの目標

第２節　今後の人口、都市空間の考え方

**第３章　目標の実現に向けて**

第１節　まちづくりの展開手法

Ⅲ　戦略計画

**第１章　重点戦略**

第１節　重点戦略の着眼点

第２節　重点戦略の内容

戦略１　安全・安心を高める

戦略２　自立した温かい地域をつくる

戦略３　明石らしい生活文化を育てる

戦略４　まちを元気にする

戦略５　保育・学びを充実する

**第２章　計画推進の考え方**

第１節　行政経営の展開

第２節　計画推進のマネジメント

# Ⅰ 序 論

## 第１章　計画策定の趣旨と基本姿勢

第４次長期総合計画の期間終了にともない、第５次計画を策定します。新たな総合計画では、まちの将来ビジョンやその実現のための基本的な方針を定めます。具体的な施策や事業の展開は各分野の個別計画で定めます。

## 第２章　計画の構成と期間

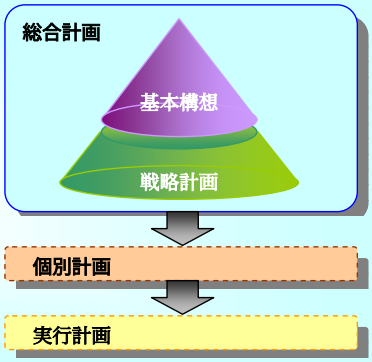
基本構想と戦略計画で構成します。計画期間は10年とします。

◆基本構想

多様な主体が共有できる今後10年の目標と、それを実現するための考え方を示します。

◆戦略計画

目標を実現するため、横断的な視点から、資源を選択・集中する重点戦略を定めます。着実な推進を図るための手法を明らかにします。




## 第３章　計画策定の背景

### 第１節　社会経済情勢の変化

・人口減少社会の到来、少子高齢化の著しい進展、低成長が続く経済。
・地球環境の悪化、情報通信技術の発展、人や制度のグローバル化。
・心の豊かさの重視、緩やかなつながりを求める意識など価値観の変化・多様化。
・地方分権の進展、公共サービスの担い手の多様化、厳しい財政事情。

### 第２節　明石市を取り巻く状況

・明石の人口は、この10年ほぼ横ばい。10年後には、１万人あまり減少すると推計。
・市街化区域、市街化調整区域の面積に大きな変化なし。農地が減少し、主に住宅用途に転用。
・第一次産業、第二次産業の就業者数が減少。
・基金の取り崩しが続き、それを除いた実質単年度収支は平成14(2002)年度から赤字が継続。

### 第３節　明石の地域特性

・山林の少ない平坦な地形、大都市近郊、交通の要衝であり、利便性が高い。
・温暖な気候で、海の恵み、自然の豊かさがある。日本標準時を伝える。
・コミュニティのよさが残る。

# Ⅱ 基 本 構 想

## 第１章　まちづくりの基本方向

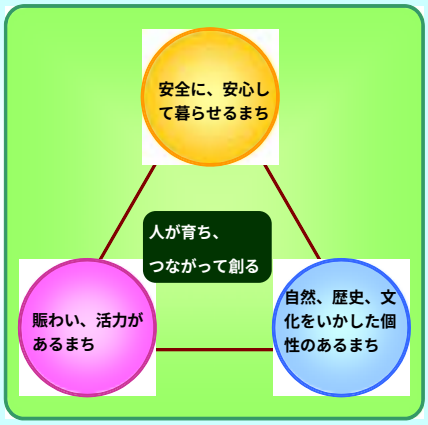
いつの時代も変わらない普遍的なまちづくりの理念と、まちづくりの目標を考える前提となるまちづくりの基本認識について示します。

### ●理念

明石は、自然の豊かさと都市の利便性をあわせ持った暮らしよいまちという特性があります。一人ひとりを尊重し、すべての人の幸せを追求することを基本に、その特性を活かして、

**「安全に安心して暮らせるまち」、**
**「賑わいや活力のあるまち」、**
**「自然や歴史、文化をいかした個性のあるまち」を、**
**「人が育ち、つながって」**つくる

これが、人々の幸せにつながるまちづくりの理念です。




※これまでにいただいた主な意見

・子ども、高齢者、障害者、皆が安心をして暮らせるまち、皆が心も体も健康で安心して暮らせるまちにしたい。
・市民アンケートでは、約35%が「事故や犯罪が少なく災害に強い安全のまち」を望んでいる。
・障害者にやさしい社会は社会そのものがやさしい社会であり、人にやさしいまちにしたい。
・障害者も含め、誰もが自分の希望する人生を歩んでいけるまちにしたい。

・心の豊かさに限らず、生活も豊かなまちをつくっていく必要がある。
・みんなが潤って活性化されてこそまちに元気が出る。

・生態系を守り、樹木や花のある自然環境が大事である。
・芸術・文化活動がまちにあふれ、文化の薫りがするまちにしたい。

・人が育ってこそまちが元気になる。まちをつくるのは人であり、人づくりのまちをめざす。
・コミュニティ豊かなまち、人のつながりが豊かなまちになってほしい。
・助け合いの心が伸びていけるまちがよい。
・子育て世代からすると、皆が声をかけやすいまちがよい。

・「住み続けたいまち」には、環境や緑、安全安心など全ての要素が含まれる。

●基本認識

・人口減少、少子高齢化の進展
・成長が期待しにくい経済
・コミュニティの希薄化
・厳しさがつづく財政状況
・環境問題の深刻化　など

⇨

・将来への明るい展望を見いだすことが難しく、社会全体に閉塞感が漂っています。
・生活していくことへの「安心」が揺らぎはじめ、まちの「活力」が減退しています。

◆明るい未来への展望をひらく10年として、「人」に焦点をあててまちづくりを進める

・社会環境の変化を認識し、明るい未来という成果を求めて着実に進めていかなければなりません。
・今後20、30年先を見据え、これからの10年間は、明るい未来への展望をひらくための時期といえます。
・新しい時代を築いていく原動力となるのは「人」です。まちを支える大きな力となる「人」が、明石に集まり、一人ひとりを大切にしながら、つながりの中で成長していくことが、今後10年の重要な視点です。

※これまでにいただいた主な意見

・高度成長を達成したが、地球を傷め、若い人が安心して子どもを産めない今を作ってきた。
・今後10年で高齢者が全体の４分の１になり、お金もなくなっていく。
・豊かな社会になっているが、マズローの欲求のヒエラルキーでいう底辺にあたる安心安全の意見が多く出ている。
・女性や子どもなど弱者を対象にした犯罪、高齢者が被害にあう交通事故が多い。
・家族機能の低下や核家族化の進行により、従来はお互い助け合っていたことができなくなっている。
・近年、地域の人間関係が非常に薄くなっている。
・右肩上がりだった目標・戦略を右肩下がりに転換しないといけない。人口増の時代は「つくる」時代であったが、人口減の時代は「つかう」時代であり、それを踏まえると「市民を育てていく」という目標でもよい。
・人口減少社会になり、地域の個性をみて、居住地が選択されていく時代になっていく。

# 第２章　10年間のまちづくりの目標

まちづくりの基本方向を踏まえて、今後10年間の明石のまちづくりの目標を定めます。

## 第１節　まちづくりの目標

### (仮)人もまちも豊かに育ち続ける　未来安心都市・明石

人が集まり、つながり、成長できるような、人が豊かに育つまちをつくることをめざします。そして、人が豊かに育つことにより、暮らしよいまちとして成長し、未来に明るい希望を持つことができる安心なまちを未来に引き継いでいきます。

明るい未来への展望をひらく10年として、人もまちも豊かに育ち続けるまちをめざします。

**●人に選ばれ、人が集まる**

多くの人を惹きつける魅力を備え、人々に暮らしたいと選ばれ、人が集まる豊かなまち。

**●人が出会い、つながる**

人と人が出会い、互いの価値観を認めあい、信頼を築いていく、つながりが豊かなまち。

**●人が学び、成長する**

あらゆる人が主体的に学び、新たなものを創造し成長していく豊かなまち。

**まちも成長する!**

「人」が豊かに育つことによって、くらしの舞台である「まち」も成長します。

**※これまでにいただいた主な意見**

・どこのまちでも使える目標でなく、生々しい明石らしさや、今このときだからという時代性を感じられる目標にすべきである。
・日本一をめざすことは、高い目標ではあるが、人が住みたいということにつながる。

・人が育つということが一番大事であり、市民がまちをつくるという視点が必要である。
・人を大切にするということは、多様な考え方を大切にするということである。
・市民が市民を育てられるような形になると、市民力も高まる。
・明石市民を大切に育てていく、明石っ子を育てるなど、明石らしさを表現できるとよい。
・「日本一人づくりを大切にするまち」といった表現が考えられる。

・人と人とのつながりをもう少し前面に出して目標を書けるとよい。
・お互いの交流を広げ、触れ合いなどを通じて自ら成長していく形が理想である。
・地域課題を地域で解決できるような、地域での人のつながりや、人を育てる地域にするという観点が必要であり、そういう地域をつくることを目標にすべきである。

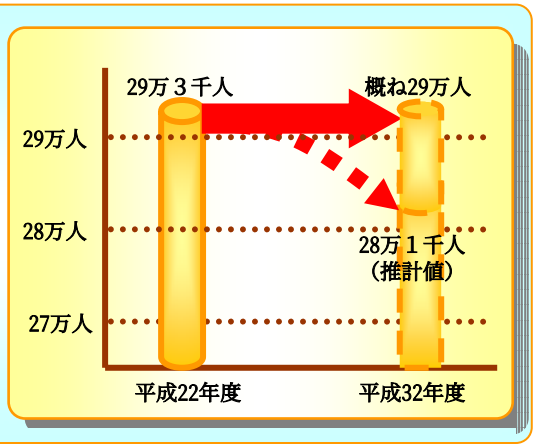
・人づくりは手段であり、最終的なまちづくりの目標ではないのでは。
・人が育った結果、どういうまちになっているかという都市像がはっきりしているほうがよい。
・10年たって人が育ってきたということを、抽象的にではなく、評価できるような生活指標や像を明確にすべきである。
・子午線というフレーズを盛り込めるとよい。

## 第２節　今後の人口、都市空間の考え方

### ●人口

人口は、まちの活力を示すバロメーターの一つです。本市でも、10年後の平成32（2020）年には人口が１万人余り減少し、少子高齢化が進展すると推計されます。

生産年齢人口を中心とした人口の流入の促進や定住性の向上を図り、推計値の人口よりも増やすことを目指し、現状の概ね29万人の人口を目標とします。




※これまでにいただいた主な意見

・人口が増えるような施策展開で明石が伸びていくことができる。
・人口を増やしていくため、明石がいいところだという仕掛けづくりがいる。
・人口増の方向性の方が前向きであり、積極的で住み良いまちづくりにつながっていく。
・兵庫県に多くある限界集落や小規模集落から人を受け入れる場所としての能力が、明石にはある。
・社会増を目ざすなら他市との人口の奪い合いになる。明石のどこがいいと思われているかという、他市を意識した施策が必要になってくる。
・人口を維持するには、女性が就業できるような環境づくりが大事。男性の育児参加について、企業も協力すべきである。
・昼間の人口を増やす、たくさんの人に来てもらえるまちにするのがよい。

・今後10年間は特別なことをしない限り人口が減っていく。その税収でどうやっていくかということが大事である。
・まちが魅力的であれば人はやってくるという構図を持つべきである。
・人口が維持、もしくはたとえ減っても、それをプラスに捉える柔軟な考え方が必要である。

●都市空間

明石市の特性である自然の豊かさと都市の利便性をともに磨き、暮らしの魅力を高める空間づくりを進めます。

**◆「安らぎ」を感じる空間づくり**

- 自然の魅力をいかした空間づくり。
- 子どもたちが自然を実感し、のびのびと育つことのできる空間づくり
- 安全で安心して住めるよう、災害に対応できる空間づくり

**◆「賑わい」をもたらす空間づくり**

- 利便性をいかした賑わいのある空間づくり
- 魅力が暮らしに溶け込む、人の集まる賑わいあふれる空間づくり
- 環境負荷や維持管理コストの少ない持続可能な空間づくり

※これまでにいただいた主な意見

・都市空間の方向性について、都市の核・軸・面という従来的なものでなく、環境面から方向性を考えるなど、新しい空間の価値を見いだしながら描けるとよい。
・これまでの都市づくりは、機能的に便利にという点から進められ、最低限の安全性は確保しつつ、快適さや便利さを追求してきたが、精度を上げるのは限界にきている。
・賑やかにするところは賑やかに、静かなところは静かにという感覚を持った。

・開発するという方向ではなく、自然や商店街など明石の魅力を残す。
・住宅の開発により、農地が失われ明石らしさが失われる恐れがある。
・大きなまちづくりのなかで集合住宅などを位置づけないと、コミュニティの良好な形成が阻害される恐れがある。
・ベッドタウンとしての機能の向上に力を入れるべきである。

# 第３章　目標の実現に向けて

まちづくりの目標を実現していくために、市民・事業者・行政など、明石でまちづくり活動を行う多様な主体が、まちづくりを進めていく考え方や手法を示します。

## ●まちづくりの展開手法

**◆参画と協働を進める**　～明石の「人」をいかす、人と地域のつながりを深める～

市民自らまちをつくっていくという住民自治の意識が育っています。まちづくりの主役である市民や団体、行政など多様な担い手が、その主体性や潜在力を発揮するとともに、お互いの知恵を出しあいながら、ともにまちづくりを推進していきます。

**◆既存ストックをいかす**　～地域特性を磨く、既存施設の機能を高める、～

明石には多くの魅力ある素材や、これまでに作ってきた社会資本などのストックがあります。これらを有機的につなげ、機能を高めながら、まちづくりを推進していきます。

**◆広域的な視点を持つ**　～広域的に連携するとともに、競争力を高める～

近隣都市が有する資源等を有効にいかすなど、補完し、協力しながら、広域的にも魅力を高めるとともに、周辺に埋没せず競争力のあるまちづくりを推進していきます。

※これまでにいただいた主な意見

・元気高齢者や学生も含め、あらゆる年代の方がまちづくりの担い手になりうる可能性がある。
・我々市民は、サービスの受益者であるとともに、サービスの提供者でもあり、都市を経営していく資源である。
・元気な高齢者の力を活かしてまちづくりを進めることができる。
・ボランティアを育成し、いかしていくことが必要である。
・企業の社会活動の場づくりもポイントとなる。
・市民活動はアンオフィシャルな活動であり、義務化されるべきでない。

・明石には海という素晴らしい素材があり、漁師、観光協会、商店街が知恵を出しあって、豊かな海を発信し利用して、まちづくりに活かす。
・歴史や文化が豊かであり、明石の良さを自ら再認識し、活かす。
・働く者にとって、交通の便利のよさは、地域を選ぶ１つの大切な視点である。

・これからは維持管理の時代である。地域の人や時間のある高齢者が道路や公園の日常的な管理をするケースが増えている。
・便利なモノを人と人のつながりの中でうまく使いこなしていくことが大事である。
・広い意味でのまちづくりの観点から、コミュニティ・センターを活用できるとよい。
・公立幼稚園が充実しているという既にある資源を活用して子育てを支援する

・エリアの視点として、小地域から発想していく視点と広域的な視点とが必要である。
・神戸や大阪の近郊都市という地の利を活かせるとよい。

# 第１章　重点戦略

基本構想に掲げたまちづくりの目標の実現に向けて、効果的で戦略的なまちづくりを展開するため、各分野横断的な視点から、波及効果が大きく、選択・集中して取り組んでいく方向を示します。

## 第１節　重点戦略の着眼点

### ◆子どもの健やかな育ちで、みんなの元気を生み出す

未来の人やまちの成長した姿は、現在の子どもたちがどう成長したかに現れます。子どもが健やかに育つことにあらゆる世代の方が関わって、しっかりと支えていくようなまちをつくっていくことが必要です。

子どもが健やかに育つ環境は、若い世代にとって魅力的な環境です。まち全体の活力の原動力となる若い世代の流入を図っていきます。

また、子どもの健やかな育ちの視点からのアプローチは、あらゆる世代とっての暮らしやすい環境につながるとともに、生きがいをもたらします。

「子どもの健やかな育ちで、みんなの元気を生み出す」ことを着眼点に戦略を組み立てます。

※これまでにいただいた主な意見

・重点戦略について、もう少し絞ってもいいのではないか。今は、全員で賛成してやっていくという時代ではなく、一部に批判があるテーマであっても踏み込んでいくべきである。
・ここに切り込めば相乗効果が得られ、非常に影響が大きいという観点から考える必要がある。

・一世代先の30年後をイメージすると、明石で育っていく今の子どもたちのためにお金を使うという発想ができる。
・子育てはまちづくりの基礎であり、子どもにとっても親にとっても安心して子育てしやすい環境を整えていく必要がある。
・子どもを育てる環境を見て、他のまちに移っていく人もいる。
・学校に行けない、行かない子どもが増えており、共働きが増える中で、皆で次代を担う子どもたちを支えあう仕組みを作っていかないといけない。
・少子化対策として、母親が安心して働ける環境、子育てのしやすい環境が必要である。
・明石で育った人が一度は外へ出ても、30代前後になって明石に帰ってきてもらえるかを考えていきたい。

・子どもの育ちによって、大人も成長する、お互いに育っていくという視点が大事である。
・市民みんなが成長する、その中で子どもも育つという観点が大事である。
・子どもの成長には、大人が関わって見本になるという意識を高めないといけない。
・知識やバイタリティのある元気な高齢者が、若い世代を育てていく環境が必要である。
・高齢者が生きがいをもって、若い人たちに貢献していけるようなインセンティブを持てる環境づくりが大事である。

・人を育てるという目標と、子どもを育てるという戦略が直結しているような誤解を受ける。子どもが育つ環境をどうつくるかというのが本旨であり、「子どもが育ちやすい環境をつくる」ということをもっと見せるようにすべきである。
・将来的に持続的なまちをつくっていくのに、子どもが大切なのは確かであるが、戦略を全部子どもにぶら下げるのでなく、いろいろな主体についても入れていくべきである。
・高齢社会にどのように対応していくかが重要になる。
・目標と５つの戦略がそぐわないように感じる。
・余生を過ごしたいまち日本一、青年が集まるまち日本一、子どもを育てたいまち日本一をめざす。高齢者が集まるためにはサポートする若年層が大事であり、若年層が集まるには子育てにやさしいことが必要であり、３つがリンクしている。

重点戦略の体系図（案）

重点戦略の着眼点

## 「子どもの健やかな育ち」で、みんなの元気を生み出す！

| | 展開の方向 | 主な展開内容 | 展開の手法 |
|---|---|---|---|
| 戦略１<br>安全・安心を高める | ①日常生活の安全性を高める | ◆子どもを地域ぐるみで守り育てる体制を充実する<br>◆公共施設のバリアフリー化を進める | 【参画と協働を進める】<br>◆関係機関との連携強化<br>【既存ストックをいかす】<br>◆地域福祉推進組織をいかす<br>【広域的な連携をいかす】<br>◆災害などに備えた相互応援協定 |
| | ②非常時への備えを万全にする | | |
| | ③健康に暮らせる期間を延ばす | | |
| | ④共に生きるための支えあいを充実する | | |
| 戦略２<br>自立した温かい地域をつくる | ①主体的な地域活動、市民活動を支える | | |
| 戦略３<br>明石らしい生活文化を育てる | ①自然、歴史、文化を身近に感じる環境をつくる | | |
| | ②環境負荷を少なくする | | |
| | ③スポーツや文化活動で心身を充実する | | |
| 戦略４<br>まちを元気にする | ①中心市街地の魅力を高める | | |
| | ②地域産業を元気にする | | |
| | ③明石ならではの魅力を創出し発信する | | |
| 戦略５<br>保育・学びを充実する | ①多様な子育てニーズに対応する | | |
| | ②質の高い教育を推進する | | |
| | ③生涯現役社会をつくる | | |

※「展開の方向」欄は、各戦略を進めるためのまちづくりの展開方向を記載。
※「主な展開内容」欄は、展開の方向に沿って、今後重点的に進める主な施策を記載。
※「展開の手法」欄は、主な展開内容に掲げる施策を効果的に推進するために、基本構想の「まちづくりの展開手法」に掲げる３つの視点に沿った具体の手法を記載。
※「主な展開内容」欄及び「展開の手法」欄は、現在検討を進めており、計画素案提示の際に示す予定。

## 第２節　重点戦略の内容

### 戦略１　安全・安心を高める

安全に、安心して暮らしを送ることは、子どもが健やかに育つ基本となるものであり、あらゆる人にとっても同様です。様々な生活の面で生じる不安に、きめ細かく対応するなど、安全・安心を高めます。

【展開の方向（例）】

**●日常生活の安全性を高める**

犯罪や事故などの発生は、日々の生活を送るうえで大きな不安要素です。関係機関や地域社会の連携や、きめ細かな対応により、犯罪や事故を防止することが求められます。

**●非常時への備えを万全にする**

地震や火災、水害などの災害は、安全を脅かす大きな要因です。最近のゲリラ豪雨など災害の態様も変化し、多様化しています。自助、共助、公助の連携を強化し、ハード・ソフト両面から、危機管理能力を高める取り組みが求められます。

**●健康に暮らせる期間を延ばす**

健全な心と身体を維持することは、充実した暮らしを送る基盤となる最も重要な要素です。疾病予防に重点をおいた健康づくりや、必要な時に必要な治療を受けられる地域医療体制の充実が求められます。

**●共に生きるための支えあいを充実する**

だれもが住み慣れた地域に暮らしの基盤があることが、安心につながります。支援の必要なときに共に支えあいながら暮らしていける環境整備が求められます。

※これまでにいただいた主な意見

・事故や犯罪が多いので、安全なまちを取り戻す。安全というキーワードが非常に大事である。
・子どもたちに命の大切さを教えていくことで、将来犯罪が減り、安全・安心なまちが形成されていく。
・高齢者の移動手段を確保し、外出しやすい環境をつくる必要がある。たこバスの利用が広がっていない。
・生活道路の段差解消や水路の危険地域解消など、障害者や高齢者などにとって住みよい環境にする必要がある。バリアフリーは進められているが、危険箇所は多くあり、細かく点検すべきだ。
・ユニバーサルやバリアフリーといった分かりやすい用語を追記してほしい。
・災害対策についての記述が必要である。

・予防という面からもっと力を注いで、子どもの頃から健康な生活ができるような工夫がいる。
・住んでいる近くで安心して健康づくりができる公園が少ない。
・救急医療や産科医療に力を入れていくべきである。
・自殺を社会全体の問題と捉えて対策することが必要である。

・高齢者や障害者等の社会的な孤立をいかに防いでいくかが大切であり、地域の中で暮らしていけるような支援が必要である。介護については、きめ細やかな地域での支えが必要不可欠である。
・独居老人に絞り込んだ記述が必要である。
・重度心身障害者を医師が常に見守る環境でケアする必要がある。
・人間関係やコミュニティの中での安心が重要である。

・市民アンケートで関心の高かった「高齢者や障害者に優しい福祉のまち」、「事故や犯罪が少なく災害に強い安全なまち」、「医療体制や健康づくりの充実した健康のまち」が１つの戦略のなかに含まれているが、個別に重点化していけないか。

## 戦略２　自立した温かい地域をつくる

温かく活動的な地域においては、子どもがより豊かにたくましく育ちます。また、あらゆる世代の人にとっても、安心で豊かな暮らしにつながります。つながりのある人間関係のなかで、地域が主体的に地域課題を解決していけるような、自立した温かい地域をつくります。

【展開の方向（例）】

**●主体的な地域活動、市民活動を支える**

市民の主体的な公益活動を支えることは、地域での豊かな暮らしにつながります。豊富な経験や知識を持つ元気な中高年者が増え、市民活動団体の主体的な活動も進んでいます。世代間のつながりや地域・事業者・ＮＰＯ・行政など多様な主体の連携を深め、地域の持つ課題の解決につなげることが求められます。

※これまでにいただいた主な意見

・絆の強い地域は子どもを育てるのに安心と感じることから、出生率が高いという分析がある。
・明石らしさは現時点で、コミュニティを活用できるところ。他市にはこのような状況は少ないので、強みとなる。
・地域の人と協力して子どもたちを守り、教育するシステムが広がればよい。
・あいさつしない大人が多い。助け合いを当たり前のようにできる社会にしていきたい。

・地域にある団体間の連携が取れていなくて、異世代間の交流、ふれあいがない。
・人が集まって世代間交流ができるような居場所づくりが必要ではないか。
・様々な世代が地域活動に参加することで、世代間の交流が促進され、つながりができてくる。
・親、子、孫が一体となって進めていける地域づくりができれば、元気な明石ができる。
・地域の中で、小学生から高校生までつながりを持てるまちづくりを考える。

・地域で活躍したいと思っているのに、その方法がわからないということでは問題である。
・小学校単位を基礎に、地域のことを地域で解決していくシステムを作る。小学校区コミセンを充実することで、きめ細かいまちづくりが実現する。
・小さな地域のコミュニティをしっかり構築することで、福祉や安全など地域の様々な課題に対応できる。
・小学校を地域の相談窓口や地域福祉の核にできるとよい。学校と地域が連携し、学校に入っていくことが大事である。

・地域活動への参加により意識が高まり、地域リーダーの育成につながる。
・地域の組織に入ると、過度に負担がかかり、活動が広がらない。
・他の団体がやっている活動内容など、重複している部分が多い。
・団体や個人がどのような活動をされているか相互に知る機会や情報の提供が必要である。

## 戦略３　明石らしい生活文化を育てる

自然、歴史、文化などに恵まれている明石で、それを身近に感じながら暮らすことは、子どもをはじめ、あらゆる世代にとって、豊かな心やふるさとへの愛着心をはぐくむとともに、魅力的な暮らしにつながります。明石を知り、明石を感じるなかで、魅力的なライフスタイルを創造していけるよう、明石らしい生活文化を育てます。

【展開の方向（例）】

**●自然、歴史、文化を身近に感じる環境をつくる**

明石には海やため池など都市にあって貴重な自然が残っています。また、歴史的文化財も数多くあります。そうした魅力を守り、日常生活のなかで実感できる環境をつくります。

**●環境負荷を少なくする**

地球環境問題への取り組みは、地域からの小さな行動の積み重ねが非常に重要となります。環境に配慮したまちづくりにより、次世代に良好な環境を残していきます。

**●スポーツや文化活動で心身を充実する**

スポーツや文化活動は、人間性や創造性を育み、暮らしの充実につながります。身近に活動できる環境整備や、市民による主体的な活動を進めていきます。

※これまでにいただいた主な意見

・「明石」を前面に打ち出して、他との差別化していくのはこれからのまちづくりに大事である。
・市民の意識がまちづくりを進めるキーであり、豊かな市民文化の醸成は、住民意識の変革を可能にする。他の戦略のベースになるものでないか。
・学生アンケートでは、あまり開発をせず、自然・緑・農地を残る静かなまちがよいという意見が多い。
・自然、歴史、文化は、人間の手で守っていくという記載が必要である。

・河川やため池の整備は、生態系保全や地球温暖化防止に加え、癒しや潤いのある生活につながる。
・ため池にはオニバス等の絶滅危惧種もいる。観察会など地元や学校に見える形にできればよい。
・明石は食で通過する人を引き留めるのが一番よい。地産地消の面からも食による魅力づくりを進めたい。
・西明石や魚住に第二第三の魚の棚があってよい。魅力のある明石の食を市内どこでもすぐに手に入れられるようにできるとよい。

・地球温暖化防止、低炭素社会は大きなテーマであり、地球環境を守ろうとすると、辛抱しないといけないことが出てくるが、方向性を示さないといけない。
・低炭素社会に立ち向かうには、市民一体となってライフスタイルそのものを変えていくことや、重要な役割を果たす企業をどう巻き込むかを考えないといけない。
・まちなかを綺麗にする取り組みが必要である。
・ごみ分別の徹底や、ごみ袋の有料化などの対策を行っていく必要がある。

・家庭、学校、地域が協力して、子どもに外で遊ぶことや体を動かすことの楽しさを教え、スポーツに楽しむ子どもを育てていくことが必要である。
・若い世代の犯罪が多いのは、スポーツなどに打ち込む環境にないからである。
・芸術・文化活動は心を健康にする分野であり、まちかどギャラリーやコンサートを広げ、芸術文化活動がまちにあふれ、文化の薫りがするまちになればよい。

## 戦略４　まちを元気にする

様々な産業活動が活発に行われ、まちに活気があふれていることは、将来の夢を持った元気な子どもの健やかな育ちにつながります。あらゆる世代にとっても、刺激のある豊かな暮らしを送ることにつながります。賑わいあふれる、元気なまちをつくります。

【展開の方向（例）】

**●中心市街地の魅力を高める**

明石駅周辺は明石の玄関口であり、まちの第一印象を決める空間です。多様な魅力と良好な回遊環境を創出し、市民にとっても魅力的で、来訪者も惹きつける活気あふれる中心市街地をつくります。

**●地域産業を元気にする**

活発な産業活動は、雇用を創出し、所得を向上させるなど、くらしの質を高め、まちを元気にする重要な要素です。特色をいかしたり、経営基盤を強化することにより、他の地域や時代の変化に負けない力をつけることが求められます。

**●明石ならではの魅力を創出し発信する**

多くの人が訪れ、滞在と消費を楽しむことは、まちの元気と活気の創出には欠かせません。多様化するニーズに対応した新たな魅力の創出など、魅力の質の向上を図るとともに、情報発信の内容や手法の整備、充実が求められます。

※これまでにいただいた主な意見

・中心市街地を活性化するうえで、国道２号によって魚の棚と分断されている事はマイナス。明石駅から魚の棚にスムーズに行けるようにする。
・魚の棚は周りを含めた面で考えないといけない。歩きたくなる演出やイベントの定着が必要。
・魚の棚が観光地化すると、住民が行きにくくなるという逆効果も考えないといけない。

・明石で働ける場を作っていくと、子どもが成長しても明石に残る。最大の目標にすべきだ。
・農業や漁業で生活していけることが大事である。多少高くても明石の中で消費してもらえるようにできるとよい。
・農地は、地元産の新鮮な野菜の提供や涼しさを感じられる環境、ゲリラ豪雨の際もすぐに水が押し寄せないといった点から、極力残していきたい。
・市街化区域内の農地は、固定資産税が生産者に重くのしかかっていて、転用されてしまう。
・農業者、漁業者、商工業者が儲けて潤うことが、まちの活性化や元気につながる。
・地元に支持される商店街づくりが観光客にも支持される。

・どうしても人が神戸に流れ、明石は通過地点になっている。イベントなどで賑わいづくりができるとよい。
・行政の枠組みを超えた観光圏という考え方がいる。
・第２神明から明石のなかにもっと人を呼び込むことができるとよい。
・明石海峡や海産物を活かすために、道の駅など賑わいづくりの拠点が必要である。
・体験型の観光や感じる観光など、多くある素材を伝え、感じてもらえるようＰＲする。
・観光資源である明石の歴史を市民に対して教える研修をしたらよい。
・ものづくりの企業が協力し合って、明石ブランドを世界に発信できるとよい。

## 戦略５　保育・学びを充実する

明石で子どもを育てたいと思える魅力的な環境づくりに取り組みます。それは、若い世代を呼び込むことにもなります。また、生涯にわたって学べる環境を整えることは、みんなの成長につながります。みんなの成長を支え、充実した暮らしを送れるよう、保育・学びを充実します。

【展開の方向（例）】

**●多様な子育てニーズに対応する**

ライフスタイルの変化にともなう子育ての不安感の増大や、仕事と子育ての両立できる環境整備が問題となっています。子育ての負担感の解消など、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めます。

**●質の高い教育を推進する**

コミュニケーション能力の低下、人間関係の希薄さが叫ばれています。たくましく未来を切り拓いていける子どもたちを、地域ぐるみで育てていきます。また、知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」を育める教育環境づくりを進めます。

**●生涯現役社会をつくる**

生涯元気で、学びの喜びを感じ、やりがいにあふれた人生を送ることができる社会が求められています。あらゆる世代が、いくつになっても学ぶことができ、地域で活躍できるような仕組みをつくっていきます。

※これまでにいただいた主な意見

・明石ではすくすく子どもが育つ、安心して育てられるという環境整備が必要である。
・育児不安を抱えた人が集まり相談できる場所があるとよい。
・子どもや青少年が、家の中にこもらないよう、社会との接点が大事である。
・女性が出産後も働けるような制度を考える。
・共働きが増えていくなか、母親が身近に働ける環境整備が求められる。
・若い世代が居住するには、幼稚園や保育所に確実に預けられるようにできるとよい。
・公立の幼稚園で３年保育を実施できるところから行っていけるとよい。
・ＵターンやＩターン、世代間同居という記述を入れるとわかりやすくなる。
・明石で子育てをするとどういうメリットがあるかを具体的に検討する必要がある。

・明石らしい教育を打ち出せたらいい。明石の教育はこれだというのをアピールすることによって、若い世代が集まるのでないか。
・住んでいる地域、明石、さらには日本を支えようという志の高い考え方を持つ人を育てていくことが大事である。
・のびのび育てたい、学力を高めたいなど、様々なニーズへの選択肢が少ない。
・学校で明石や地域の良さや歴史を学べるとよい。
・人が育つことでグローバルにも目が向く。国際化の視点は県ビジョンの重点項目であり盛り込めたらよい。

・地域で活躍したいがその方法がわからない人のために、きっかけや仕組みをつくる。
・生涯学習は、住民の士気を高め自分の頭で考えて行動する市民を育てるので、生涯学習を核としたまちづくりを進める。
・元気な高齢者や障害者が働ける場、活動できる場が必要である。
・知識やバイタリティがある元気な高齢者が、自信の持てない若い世代を育てていく環境が必要である。再チャレンジが可能な社会をめざしていくべきである。

# 第２章　計画推進の考え方

行政資源を効率的で効果的にいかしていくため、行政経営の基本的な考え方を示します。

## 第１節　行政経営の展開

①行政経営の基本的な考え方

**◆市民満足度を高める　◆効率的で無駄をなくす　◆多様な主体の力を活用する**

②展開のポイント

- **参画と協働の推進**
  参画と協働を市政運営の柱とし、市民参画の拡大と協働のまちづくりを進めるための仕組みづくりを進めます。
- **自立した地方行政の推進**
  地方自らの創意と工夫で、地域課題に的確に対応できるよう、企画・立案・執行能力の向上を図るなど、行政の経営体制を充実します。
- **市民ニーズに対応した行政経営**
  多様化する市民ニーズに対応するため、広く市民から意見等を聴取し、迅速なフィードバックを図ります。
- **組織力・職員力の向上**
  行政需要や政策的課題に的確、迅速に対応するため、適正な業務執行体制を図ります。
- **健全財政の推進**
  歳出削減と歳入確保による収支バランスの改善に努めるとともに、経常収支比率の改善に努め、健全財政の確保を図ります。

※これまでにいただいた主な意見

- 自治の展開について、コミセンを通じた展開や行政と自治会の関係なども含め、大きな方針を打ち立てていかないといけない。
- 役所と市民、提供者側と受益者側の関係のキーワードは互恵性である。
- 住民によるまちづくりが大事であり、市民が参画できるような行政のシステムづくりが大事である。
- 多様な担い手が力を発揮するための環境づくり、団体間で協力できるように行政がサポートするシステムの構築が必要である。
- 地域コミュニティを成熟させるための仕掛けづくりを行政は考えるべきである。
- 地域自ら地域を管理運営していく仕組みと、行政が全体をマネジメントする機能との関係について考えていかないといけない。
- 各小学校区で出た課題を行政に伝えたり、逆に行政から投げかけて地域の中でどう解決していくかを考えたりできるとよい。
- 小学校区で抽出した課題を中学校区レベルで意見交換するシステムが必要である。また、明石トータルで何を重点にするかを考えていく必要がある。

- 行政が縦割りでなく、連携をとって横の広がりができるとよい。
- パブリックコメントの少なさを見ても、情報発信の仕方に問題がある。
- 官民がパートナーを組んで事業に取り組むＰＰＰについて検討すべきである。
- 予算を使い切るという体質を改善するべきである。
- 特に厳しい財政状況であり、効果の高い箇所を集中的に行うという選択と集中で進める必要がある。

## 第２節　計画推進のマネジメント

①個別計画の策定と推進

・各分野の具体の施策や事業は、個別計画に基づき展開します。
・個別計画の策定等にあたっては、市民参画の機会を十分に取り入れます。
・総合計画に定めるまちづくりの方向と整合しないとき、法律や制度の変更や市の方針など、変更する必要が生じたときは個別計画の見直しを行います。
・これまでの総合計画に定めているものの実施に至っていない事業について、第５次総合計画の計画期間において取り組むものは、個別計画で基本的な方針を明らかにします。
・個別計画には、特定の区域や施設にかかる取組方針について、市民の意見を踏まえてとりまとめたものについても含みます。

②実行計画の策定を通じたＰＤＣＡによる進行管理

・年度ごとに実行計画を策定し、市民ニーズや取り組み効果、財政状況等をふまえ、優先度を整理し、取り組む施策や事業を明らかにします。
・各分野の事務事業について、事務事業総点検による成果や課題を整理し、個別計画の推進状況の検証を行います。
・検証をもとに、事務事業を見直し、予算編成に反映し、実行計画の策定につなげます。
・こうしたＰＤＣＡサイクルにより、個別計画の見直しを検討するとともに、各個別計画の評価による総合計画全体の評価につなげます。

※これまでにいただいた主な意見

・総合計画と個別計画の関係性を精査していく必要がある。
・実行計画に市民が入り込める仕組みができるとよい。